

国際連合事務総長

国際生物多様性年クロージング式典へのメッセージ (仮訳)

2010年12月18日、石川県金沢市

私は、国際生物多様性年の開始に当たり、もし我々が持続可能性の遺産である生物多様性を後世に残したいのであれば、これまで通りの行動をとることはもはや選択肢となり得ないことを強調しました。本年を通じて、幾多の国での幾多のイベントで、世界中の人々が我々のいのちを支えている生物多様性の保全に向けて、新たな熱意を示してくれました。

「生物多様性のための1つの国連」というスローガンの下、国連全体で貧困削減、開発と人間の安全保障にとって生物多様性がどれほど大切な要であるかを示すべく取り組みました。このメッセージは政策決定者に届いたようです。今年9月の生物多様性に関する国連総会ハイレベル会合において、世界中の指導者たちは地球上のいのちを守るために今こそ行動を起こすべきであると強調しました。今年10月に愛知県名古屋市で開催されたCOP 10では、各政府は新たな生物多様性ビジョンに合意し、また生物多様性国家戦略や南南協力にガイダンスを与える愛知ターゲットを採択するとともに、都市と生物多様性に関する行動計画を承認しました。

国際生物多様性年であった本年は、生物多様性に関する法的枠組みにおいても素晴らしい前進がありました。遺伝資源へのアクセスと利益分配(ABS)に関する名古屋議定書の完結はその主要な成果です。そして、バイオセーフティに関するカルタヘナ議定書の、責任と救済に関する名古屋・クアランプール補足議定書の採択についても同様です。

本年は、メキシコ・カンクンで開催された気候変動枠組条約のCOP 16も、REDDプラスに関する重要な合意がなされるなど成功裏に交渉が進み、実施のための資金も確保されました。森林保全とその持続可能な管理を促進することにより、森林に対する気候変動の影響を緩和しその回復力を高めるだけでなく、加速する生物多様性の損失割合を減ずるための道のりを歩んでいくことになります。

REDDプラスは、気候変動と例えばエネルギー、水、食糧や人口変化の傾向のような他の主要課題の間の「点」を「線」で結ぶための広範な取り組みの一部をなすものです。生態系の保全は、この課題において必須であるとともに、2012年の国連持続可能な開発会議(Rio+20)や他の国際的な協議への準備に向けて、私が今年8月に創始した「地球の持続可能性に関するハイレベル・パネル」にとっても焦点となる重要分野です。

2011 年の国際森林年と、2011 年から 2020 年までの国連生物多様性の 10 年を見据えるにあたり、この一年が生み出した勢いを持続し、加速させましょう。そして、現在及び将来の人間世代のために、地球上の生命があらゆる多様性と複雑性を維持できるよう、私たちの取り組みを続けていきましょう。